

塩尻市都市計画マスタープラン

全体構想の概要

塩尻市では令和 6 年度中の公表を目指して「塩尻市都市計画マスタープラン」の見直しを進めています

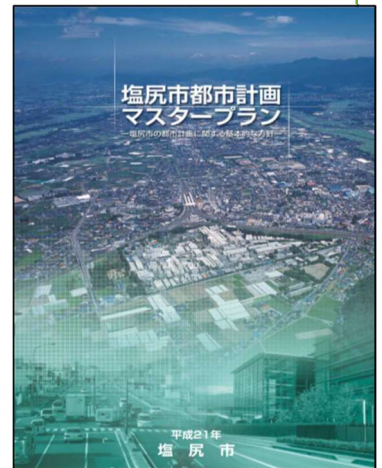
1 「都市計画」と「都市計画マスタープラン」とは

● 「都市計画」とは

➔土地の使い方のルール、道路や公園等の配置、計画的な市街地整備事業を定めるものです

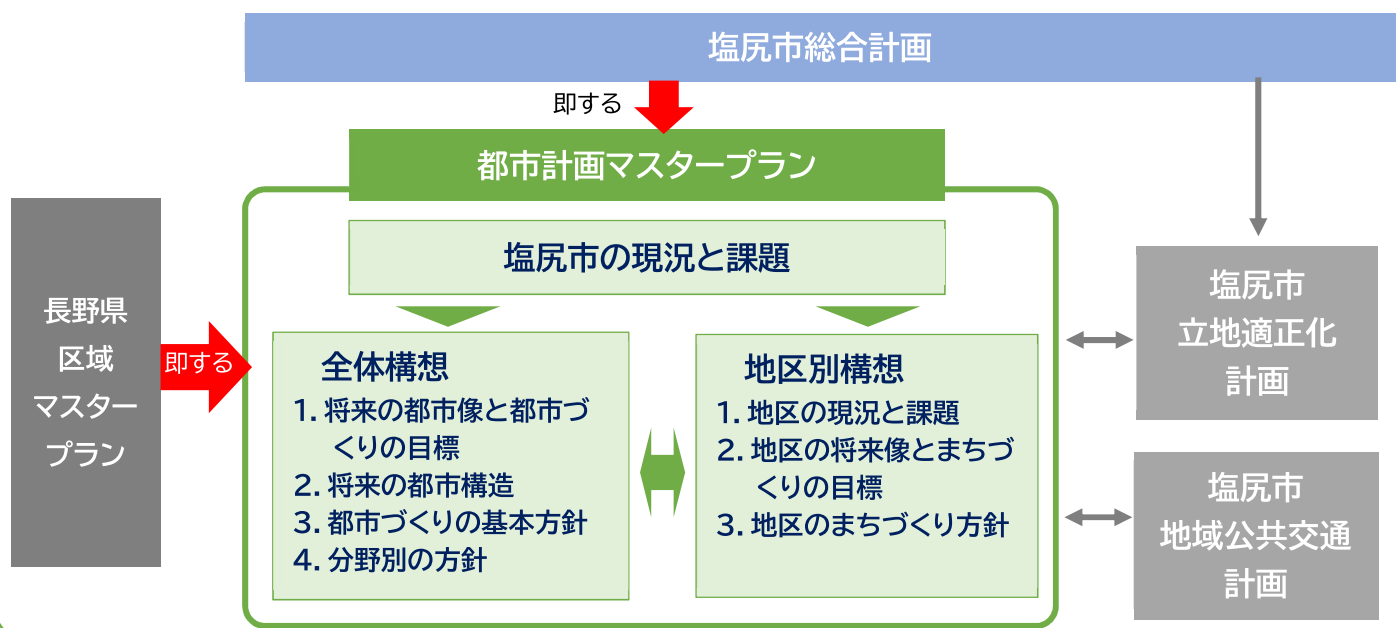
● 「都市計画マスタープラン」とは

- ➔市町村が、市民の意見を反映して、将来のまちのあるべき姿やまちづくりの基本的方向性をわかりやすく示すもの
- ➔おおむね 20 年後の都市の姿を展望し、個別の施策内容はおおむね 10 年後を目標として定めます



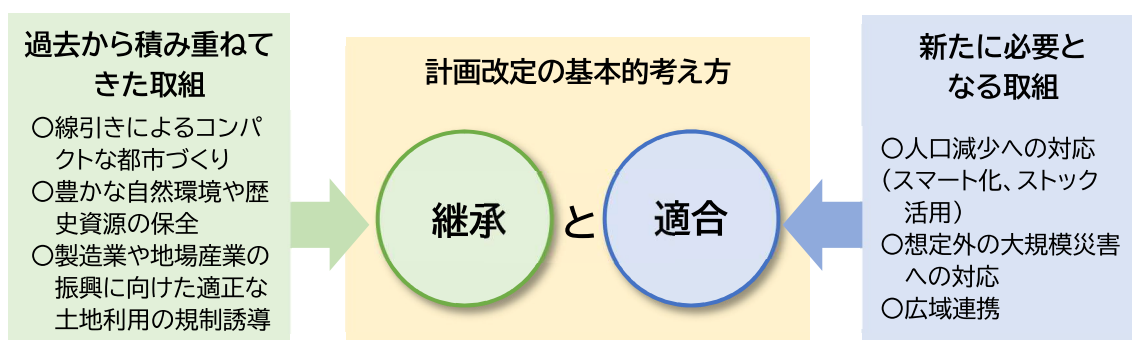
2 「都市計画マスタープラン」の構成

- 都市全体を対象とする「**全体構想**」、市内 10 地区毎に定める「**地区別構想**」によって構成され、塩尻市総合計画等に即して、市の都市計画の基本方針を定めます



3 今回の改定の視点

- 過去から積み上げてきた取り組みを**継承**しつつ、新たな時代に求められる都市像へと**適合**させることを基本に計画を改定します



4 タウンミーティングで確認したい事項

- 今回のタウンミーティングでは、地域の特性を踏まえたまちづくりの目標や方針を定める「**地区別構想**」の策定にあたって、地域の皆さんの声を広く聴くものです
- 地区別構想では、最終的には地区が有する強み・弱みを整理した上で地区の抱える課題を抽出し、その課題を踏まえた**地区の目標やまちづくり**の方針を定めたいと考えています
- 数値的な事実等から、市で地区毎の強み・弱み、地区の目標等を暫定的に設定しますので、そこに対して皆さんが感じていることを述べていただき、案を練磨したいと考えています

塩尻東地区

地区別構想の骨子

1

地区の歴史と成り立ち



- ▶古代から諏訪へ出る塩尻峠や荷直峠越えの道があり、江戸時代には中山道が開通
- ▶古代から伊那谷から善知鳥峠を越えて松本に通じる東山道が通り、近世には伊那街道、現在の国道153号へ
- ▶塩尻宿は松本・伊那方面に通じる伊那街道と木曾方面に通じる中山道や木曾路の分岐点として栄える
- ▶明治初年に県の七道開削事業の一号として新道が開削(のちの国道20号)
- ▶JR中央東線の塩尻～岡谷間を結ぶ短絡線の敷設に伴い、昭和58年にみどり湖駅が開設
- ▶昭和以降の土地区画整理事業や住宅団地開発により人口が増加
- ▶昭和54年に小坂田市民プールが開園し、その後、昭和56年に小坂田公園が開園、柿沢苗圃跡地が再整備され、平成23年からブドウの栽培が開始、平成27年にワイナリーがオープン
- ▶平成27年に小坂田市民プールが閉鎖
- ▶小坂田公園の再整備が行われ、令和5年4月1日にリニューアルオープン

2

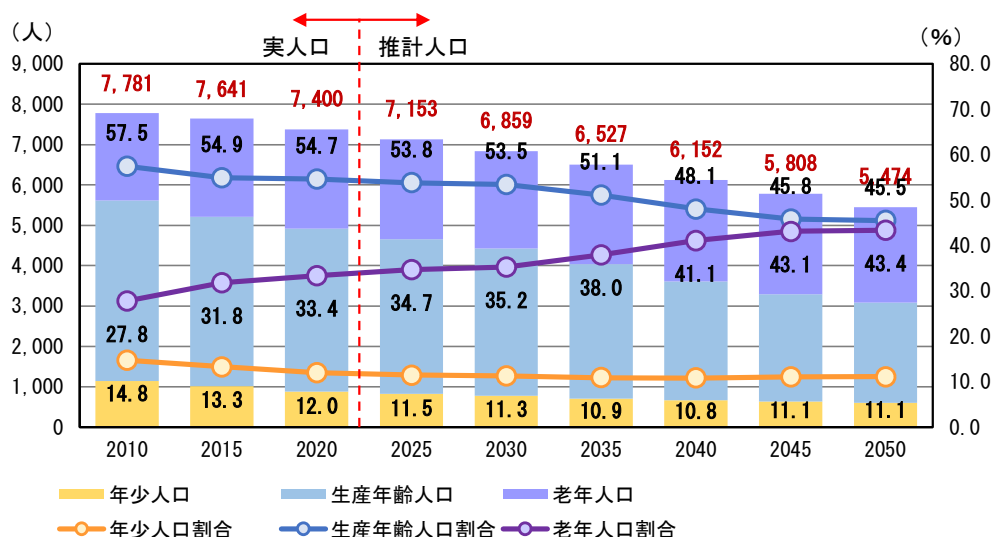
地区の概要



- 地区面積約3,339ha
- 地区の全域が都市計画区域、約5%が市街化区域

- 地区人口は7,400人(R2年)、過去10年間で381人の減少
- 高齢化率(65歳以上人口割合)は市平均を上回る33.4%

●人口の推移



塩尻東地区

地区別構想の骨子

3

地区の課題とまちづくりの目標



地区の強み



小坂田公園、みどり湖といった自然とふれあい、楽しむことができる環境の集積

親水性の高い水辺空間の分布

東京、名古屋、京都・大阪に連絡する高速バス

周辺都市へのアクセス性が良く、比較的運行本数の多いみどり湖駅

中山道の街並みの面影を残す塩尻宿

地区の弱み



店舗等、生活に必要な施設の少なさ

国道153号は通過交通が多く歩行者や自転車が危険

市街化区域内や集落内に分布する洪水や土砂災害のハザードエリア

山間部での太陽光発電施設増設による良好な景観減少

遊休農地、荒廃農地の増加

「強み」を生かす

「弱み」を克服する

地区の課題

中心市街地との連携を強化しつつ、地区内で買物等ができる利便性の維持が必要

市街地、集落、みどり湖駅及び周辺の観光資源を結ぶ道路と公共交通機能の維持が必要

農村集落の住環境改善や周囲の自然環境保全と一体となった優良農地の保全が必要

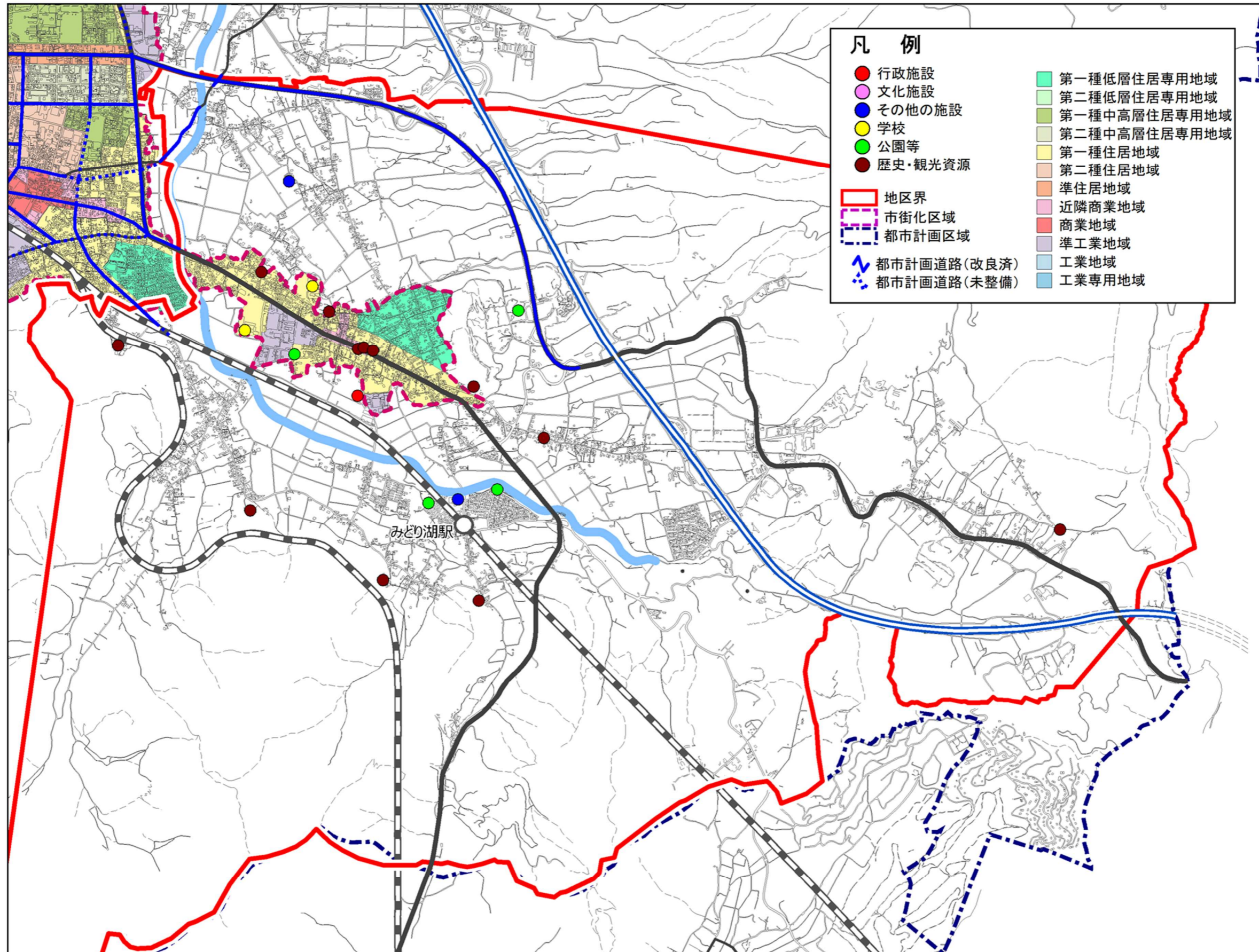
まちづくりの目標

地区に多くの人々を呼び込み、滞在・回遊してもらうまちづくりを進める

歴史資源や観光資源に磨きをかけ、資源間を結びつけるまちづくりを進める

農村集落で安全で快適に暮らし続けられるまちづくりを進める

●地区の主な施設・資源の分布



●地区の災害ハザード

